別紙

学 校 教 育 に お け る 規 範 意 識 の 育 成（2）

― 公立小中学校　児童・生徒の意識調査結果報告書 ―

１．研究の目的

学校教育における児童・生徒の規範意識の育成にどのように取り組んでいくかを探るため、学校規範に関する児童・生徒の意識と行動の傾向を知ることが本調査研究の目的である。

２．調査の方法

質問紙によるアンケート調査

以下の内容について、昨年実施した教員の意識調査の結果をもとに、設問、選択肢を設定し、調査票を作成した。

① 児童・生徒は学校規範（学校生活におけるのきまり）についてどのように考えているか。

② 児童・生徒は学校規範（学校生活におけるきまり）について実際の自分の行動をどう意識しているか。

調査時期　平成 25 年 11 月～12 月

本研究会会員から、小中学校に勤務する知人に調査協力を依頼して、承諾いただいた学校毎に調査票を送付し、アンケートを実施後、まとめて返送をお願いした。

調査票の回収数と回答者の属性は下表の通りである。

	小学校			中学校		
学校数	15 校			10 校		
対象学年	第５学年			第２学年		
回答者数	501 名			365 名		
性別	男	女	合計	男	女	合計
	242	259	501	184	181	365

３．調査の結果

（１）学校生活のきまり（学校規範）に対する児童・生徒の意識

設問（１）では、児童・生徒の学校生活のきまりを遵守しようとする意識の度合いを「よくあてはまる」、「だいたいあてはまる」「あまりあてはまらない」、「ぜんぜんあてはまらない」」の４件法で調査し、集計結果を小・中学校別に示したのが、図１－（１）、図１－（２）である。

① 「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」を合わせた肯定的な回答率についてみると、小・中学校とも多数の項目が 90％を超えており、きまりとして受け止めることができているといえる。

② 小学校と中学校では児童・生徒の意識にあまり大きな差はないが、やや違いがある項目は、３「通学路」小（92%）中（71%）と、９「廊下の歩行」小（87%）、中（80％）であった。３と９では、選択肢「よくあてはまる」を比較するとさらに小中の差が大きかった。《３：小（65%）、中（38%）、９：小（56%）、中（39%）》

また、「よくあてはまる」の比較において、１１「給食時のあいさつ」小（80%）、中（67%）に差があることにも着目しておきたい。

③ ほとんどの項目で、小学校の方がわずかであるが中学校より学校規範に対する肯定的な回答率が上回っていたが、中学校の回答率が高い項目が４項目あった。中学校の意識が高い項目は、７「時と場に応じた言葉づかい」小（92%）、中（96%）、１２「登校時の服装や髪型」小（73%）、中（88%）、５「チャイム着席」小（94%）、中（96%）、１５「係や委員会の仕事」小（96%）、中（98%）であった。特に「言葉づかい」と「服装や髪型」については、「よくあてはまる」の回答も高いことに着目しておきたい。

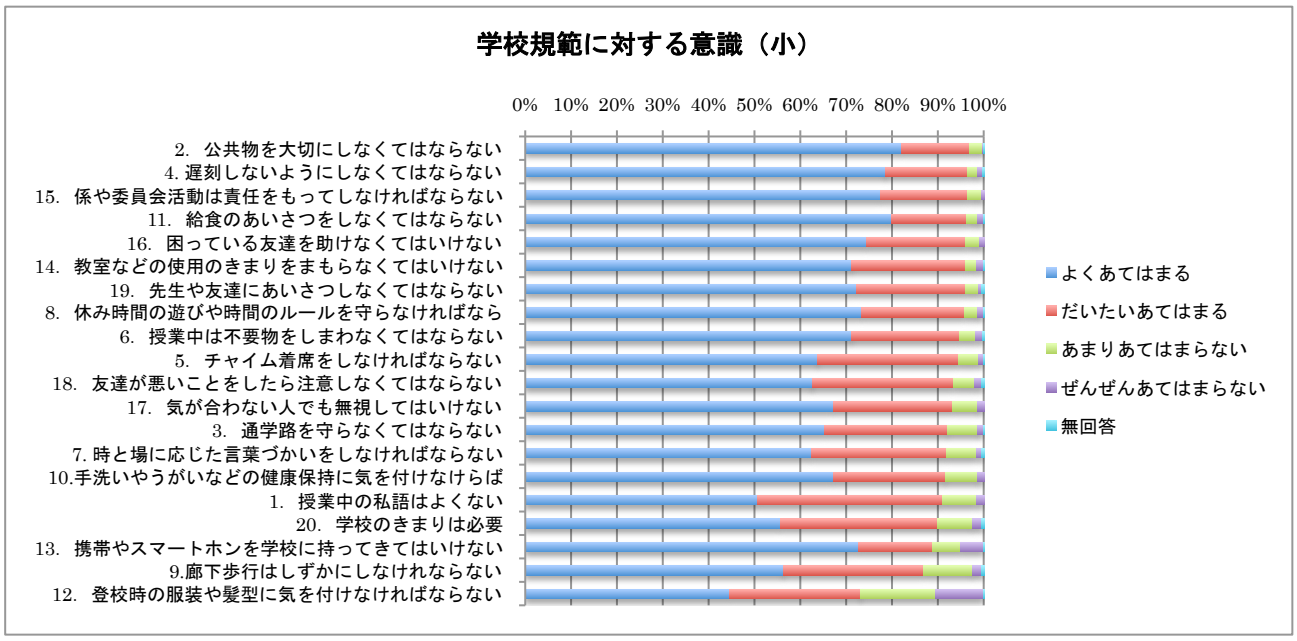

図１－（１）

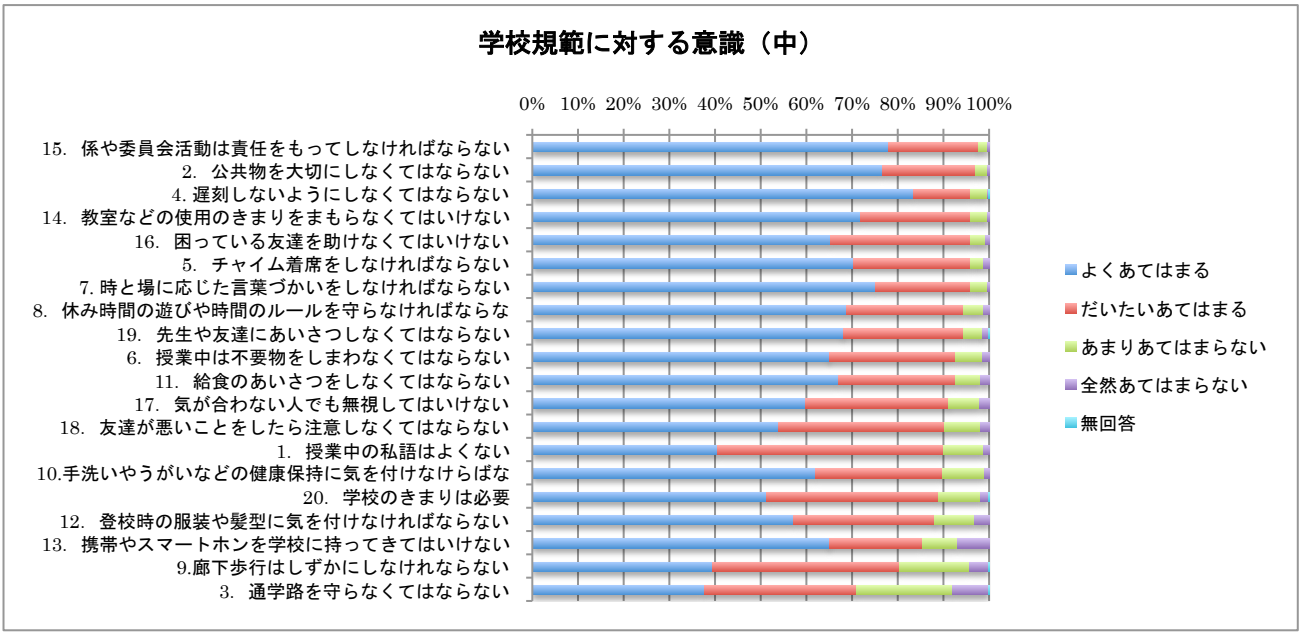

図１－（２）

（２）学校生活の決まり（学校規範）に対する児童・生徒の行動

設問（２）では、設問（１）で訊ねた項目を守っているかについて「よくあてはまる」、「だいたいあてはまる」「あまりあてはまらない」、「ぜんぜんあてはまらない」」の４件法で調査した。

小・中学校別の集計結果を示したのが、図２－（１）、図２－（２）、である。なお、設問（２）では、「守らないことがある」などの逆転項目を織り交ぜて質問した。逆転項目は問２１、２２、２３、２５、２９、３３、３５、３７の８項目である。図３－（１）、図３－（２）として示した。

① 学校規範を守って行動していると肯定的な回答が 90%に達している項目は、小中とも１項目のみであった。小では、３１「給食時のあいさつ」(96%)、中３９「先生・友達とのあいさつ」(92%) のみであった。設問（１）の意識と比較すると児童・生徒のきまりを守って行動しているとの回答率は低い。

② 80%に達しているのは、小学校では７項目、中学校では９項目あった。

小学校《２８「休み時間のルール」(85%)、３１(93%)、３２「服装・髪型」(82%)、３４「教室等の使用」(86%)、３９「先生・友達とのあいさつ」(89%)、４０「学校のきまり」(82%) 逆転項目の３３「携帯電話・スマートフォンの持ち込み」(89%)》

中学校は、小学校と共通する７項目の２８(89%)、３１(89%)、３２(87%)、３４(86%)、３９(92%)、４０(89%) ３３(79%)に、２７「時と場に応じた言葉づかい」(87%)、２２「公共物の扱い方」(79%)、

の２項目が加わる。概ね小中共通しているが、「時と場に応じた言葉づかい」「公共物の扱い方」の２項目では、小学生より中学生の方がきまりを守っているとの回答率が高いことに着目しておきたい。

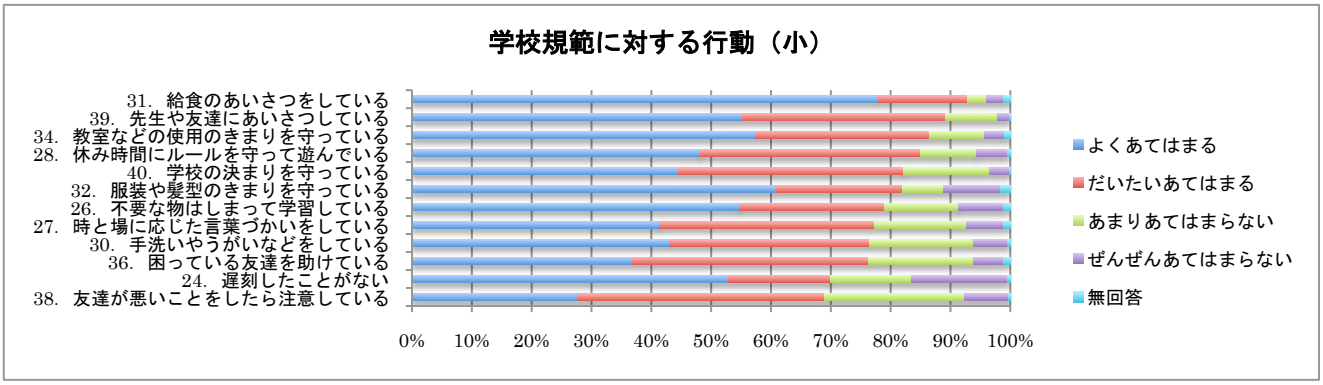

図２－（１）

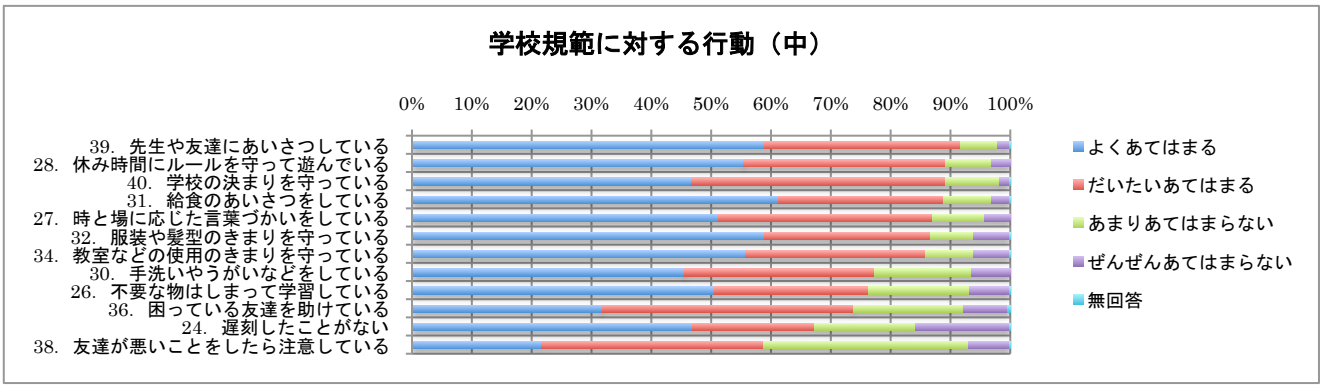

図２－（２）

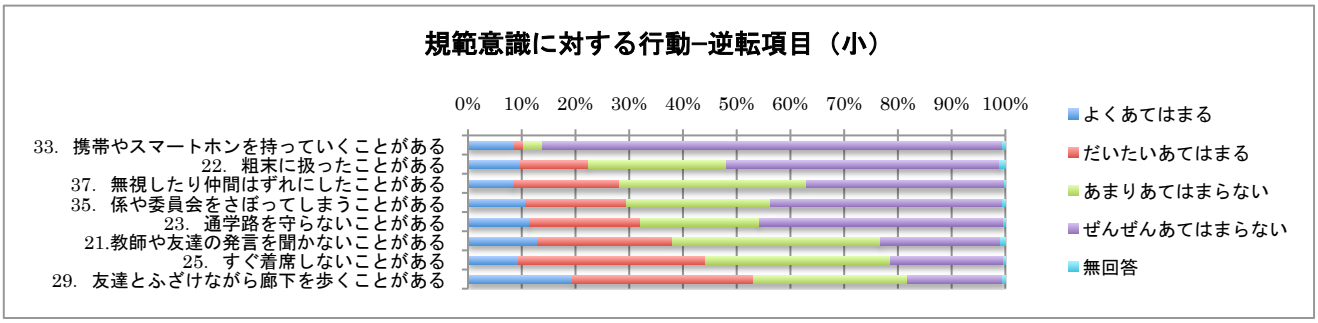

図３－（１）

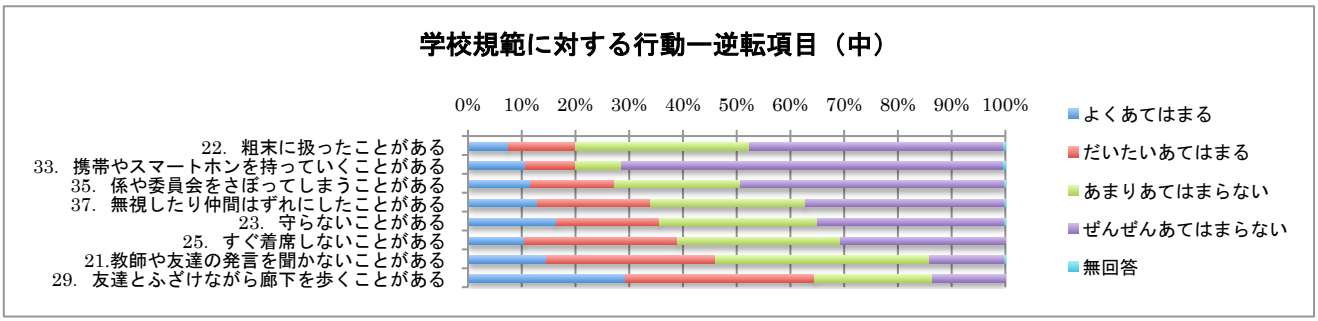

図３－（２）

（３）規範意識に対する意識と行動の比較

次に、設問（１）きまりに対する「意識」と設問（２）きまりに対する「行動」を比較した。(以下､それぞれ､｢意識｣､｢行動｣と表記する。）小・中学校別の集計結果を示したのが、図３－（１）、図３－（２）、図３－（３）、図３－（４）である。（２）と同様、逆転項目をまとめて図３－（３）、図３－（４）に示した。なお、「意識」と「行動」の比較では、その差に着目しデータを整理した。逆転項目はでは、行動の選択肢「ぜんぜんあてはまらない」「あまりあてはまらない」をそれぞれ、「よくあてはまる」「だいたいあてはまる」に

読み替えて整理した。

意識より行動の回答率が高かったのは、小学校の１２と３２「登校時の服装や髪型」(意識 73%、行動 82%)のみであった。また、意識と行動にあまり差がみられないのは、中１２と３２（意識 88%、行動 87%)、２０と４０（意識 88%、行動 88%)、逆転項目の小１３と３３（89%、89%）であった。

その他の項目では、行動より意識の回答率の方が高かった。即ち、小中共に、決まりを守るべきという意識はあるが、実際の行動ではきまりを守っていないと児童・生徒が認識しているといえよう。

意識と行動において差に着目する。小学校では２０%以上の差がある項目が１０項目ある。《４と２４(96%、70%)、１８と３８（93%、69%)、１６と３６（96%、76%)、逆転項目の９と２９（87%、46%)、５と２５（94%、55%)、１と２１（91%、61%)、１５と３５（96%、70%)、３と２３（92%、６８%)、２と２２（97%、76%)、１７と３７（93%、72%)》

中学校は７項目であった。《１８と３８（90%、59%)、１６と３６（96%、74%)、逆転項目の９と２９（80%、36%)、１と２１（90%、54%)、５と２５（96%、61%)、１５と３５（98%、73%)、１７と３７（91%、66%)》

なお、逆転項目の方が多い。これは、「したことがある」の質問に若干回答率が高くなる傾向があったかもしれない。

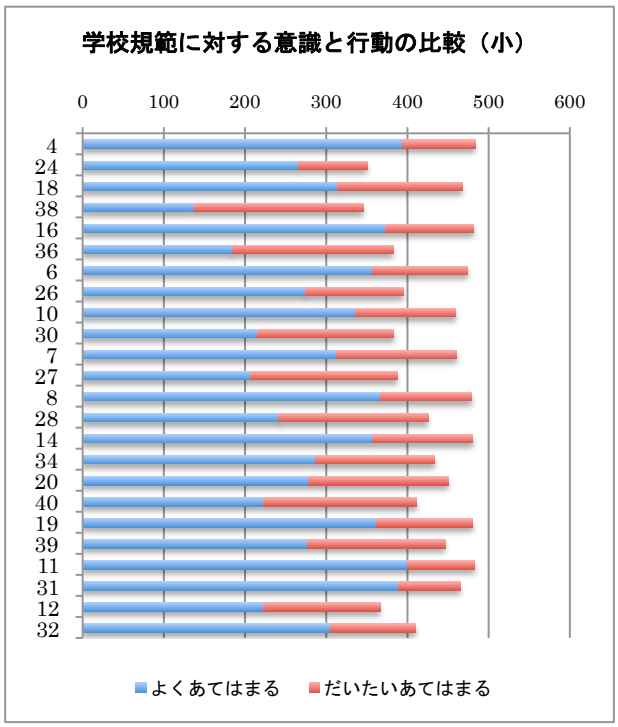

図３−（１）意識と行動の比較（小）

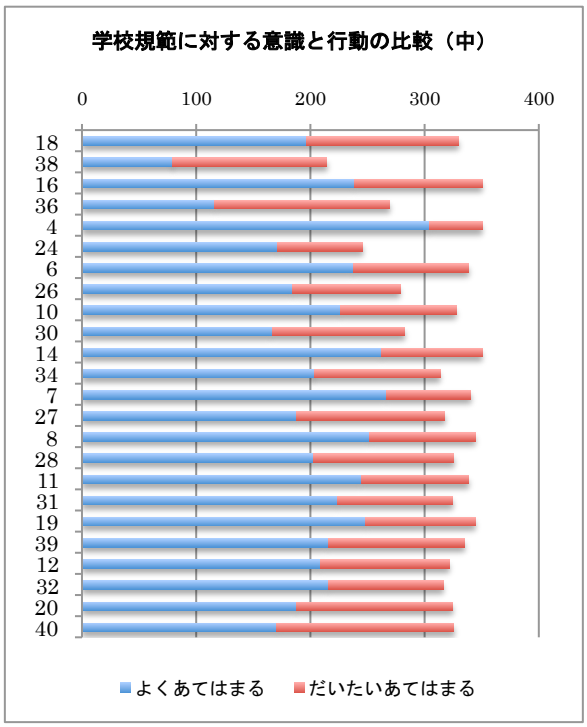

図３−（２）意識と行動の比較（中）

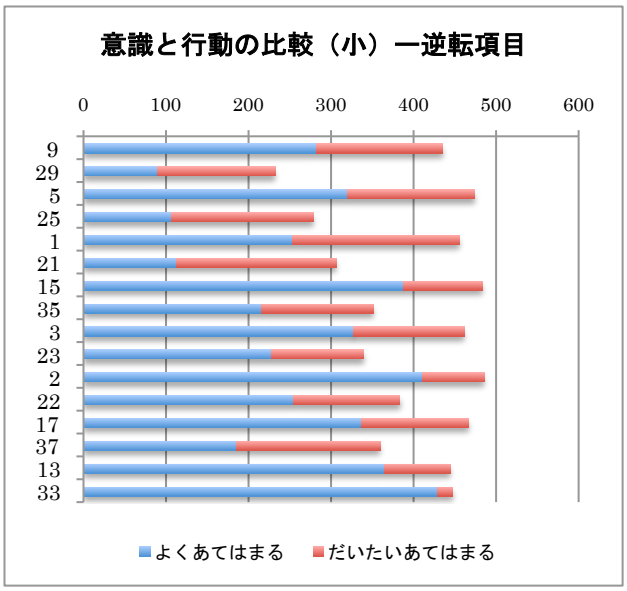

図３−（３）意識と行動（小）逆転項目

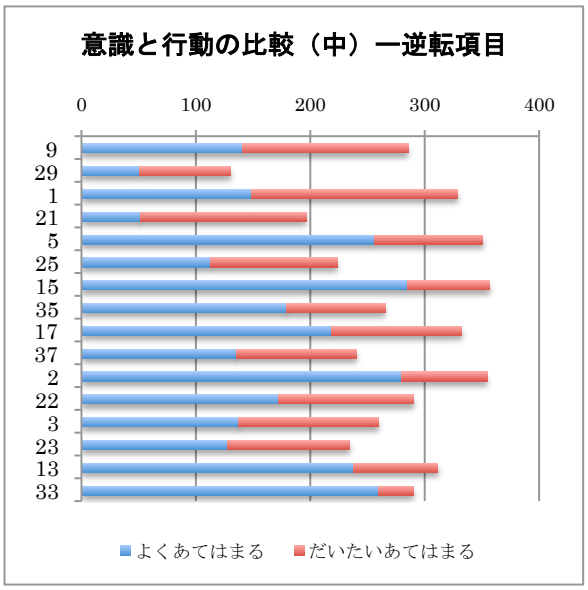

図３−（４）意識と行動（中）逆転項目

４．まとめと考察

（１）　「児童・生徒の意識」について

学校生活のきまり（学校規範）に対する児童・生徒の意識について「よくあてはまる」、「だいたいあてはまる」と肯定的回答をした割合が高い順に調査項目を並べたものが下の表である。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
（小）	2>	4>	15>	11>	16>	14>	19>	8>	6>	5>	18>	17>	3>	7>	10>	1>	20	13>	9>	12>
（中）	15>	2>	4>	14>	16>	5>	7>	8>	19>	6>	11>	17>	18>	1>	10>	20>	12>	13>	9>	3>

この表から、児童・生徒が「どのようなきまりをより良く守ろうとしているか」については、それほど大きな違いはないことが分かる。小・中学校共に上位にきた項目は、「２・４・１５・１４・１６」であり、下位にきた項目は「２０・１３・９・１２」である。

＜共通して意識の高い項目＞	＜共通して意識の低い項目＞
２　公共物を大切にする	１　授業中の私語は良くない
４　遅刻しない	２０　学校のきまりは必要
１５　係や委員会活動に責任を持つ	１３　携帯やスマートホンを学校に持ってこない
１４　教室などの使用のきまりをまもる	９　廊下を静かに歩く
１６　困っている友達を助ける	１２　服装や髪形に気を付ける

小学校で児童が守ろうとする最も意識の高い項目は、「公共物を大切にする」ことであり、中学校では「係りや委員会活動に責任をもつであった。とりわけ、自主的な活動については、中学校での委員会活動や生徒会活動等に対する意識の変化が少しずつ表れてきていると思われる。さらに、困っている友達を助けようとする意識も高いことが分った。

一方、守ろうとする意識が最も低い項目は、小学生の服装や髪形、中学生の通学路に対する意識であった。これは、標準服や髪形に対する校則のない小学校の実態、集団登校・下校がない中学校の実態から当然の結果とも考えられる。また、＜共通して意識の低い項目＞の中で最も守ろうとする意識の低い項目は、「廊下を静かに歩く」であった。加えて、「授業中の私語は良くない」について、「よくあてはまる」の回答率は、小５０％、中４０％であった。「授業中の私語」について、「教師や友達の話をしっかり聞き、理解する」という観点から、小・中学校で共通して、意識を高める指導を行う必要があると考える。

携帯電話やスマートホンについては、災害の発生時の対応から学校や保護者の考え方が様々あり、それが児童・生徒の意識に実態に表れていると思われる。携帯電話やスマートホンの取り扱いは新しく現れてきた問題であるが、児童・生徒の生活に大きな影響を与えている問題でもある。小学校で約１０％、中学校で約２０％と、「学校に持っていくことがある」の回答率が、小学校から中学校でおよそ２倍になっている状況からも、保護者と学校の連携が早急に必要になってきていると言えよう。

次に、小・中学校で意識に大きな差のある項目は次のようになった。

＜意識に大きな差のある項目＞
- ３　通学路を守らなければならない。
- ７　時と場に応じた言葉づかいをしなければならない。
- １１　給食のあいさつをしなければならない。

この３項目中２項目は小学生の方が良く守ろうとしているが、「７　時と場に応じた言葉づかい」について、中学校の回答率が高く、その差は「よくあてはまる」の回答率で大きかった

また、「通学路を守らなければいけない」と言う意識について、小学校では集団登校・下校が保護者や地域の方の協力を得て行われているが、中学校では通学路の指定はあるものの、生徒の主体性に任されているのが実情である。このような実態の差が児童・生徒の意識に反映している様子がうかがえる。

給食時のあいさつについては、小学校では学級担任による給食指導が徹底されている様子がうかがえるが、中学校で意識が低いのは、給食のあいさつはみんなと一緒に一斉に行うので、習慣化されやすい一方、あいさつをしなくても分からないからとしないでいる場合もあるのではないだろうか。

（２）　「児童・生徒の行動」について

小学生と中学生の行動について、「よくあてはまる」、「だいたいあてはまる」と肯定的回答をした順に調査項目を並べたものが下の表である。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
（小）	31>	39>	34>	28>	40>	32>	26>	27>	30>	36>	24>	38>
（中）	39>	28>	40>	31>	27>	32>	34>	30>	26>	36>	24>	38>

児童・生徒が「どのようなきまりをより良く守っているか」については、それほど大きな違いはない。

小・中学校共に上位にきた項目は、「３１・３９・２８・４０」であり、下位にきた項目は「３０・３６・２４・３８」である。

＜共通して上位にある項目＞	＜共通して下位にある項目＞
３１　給食のあいさつ	３０　手洗いやうがい
３９　先生や友達にあいさつ	３６　困っている友達を助ける
２８　ルールを守って遊ぶ	２４　遅刻しない
４０　学校のきまりを守る	３８　悪いことをした友達に注意

「あいさつ」や「学校のきまり」、「遊ぶきまり」などの項目は良く守られている。一方、下位の項目では「手洗いやうがい」、「遅刻」、「友達を助けたり、注意したりする」ことであった。

また、小・中学校で大きな差のある項目の「２７　時と場に応じた言葉づかい」については、中学生の方が比較的よく守っていると言える項目であるが、小学生では下位にきている。中学校の生活指導・進路指導により生徒の意識付けが行われていることがうかがえる。

「学校規範に対する行動（きまりを守れなかった行動）－逆転項目」について、「ぜんぜんあてはまらない」「あまりあてはまらない」と回答した割合が高い順に調査項目を並べたものが次の表である。

	１	２	３	４	５	６	７	８
（小）	33>	22>	37>	35>	23>	21>	25	29>
（中）	22>	33>	35>	37>	23>	25>	21>	29>

小・中学校間で大きな違いはないことが分る。特に、「２９　友達とふざけながら廊下を歩く」、「２５　すぐに着席しない」、「２１　教師や友達の発言を聞かない」などが下位にきていることが分った。児童・生徒は、集団になるとこのような行動をしてしまう傾向があることがうかがえる。

（３）　意識と行動のずれについて

表Ａと表Ｂは意識と行動のずれの大きい順に項目を上から並べたものである。

表Ａ（小学校の「意識と行動のずれ」の様子）

意識（高い）	行動（低い）
１　授業中の私語は良くない（９０％）	２１　教師や友達の発言を聞かないことがある（３８％）
５　チャイム着席をしなければいけない（９４％）	２５　すぐに着席しないことがある（４４％）
９　廊下を静かに歩かなければいけない（８７％）	２９　友達とふざけながら廊下を歩いたことがある（５３％）
４　遅刻をしないようにする（９６％）	２４　遅刻をしたことがない（７０％）
１８　友達が悪いことをしたら注意する（93%）	３８　友達が悪いことをしたら注意している（６８％）

表Ｂ（中学校の「意識と行動のずれ」の様子）

意識（高い）	行動（低い）
５　チャイム着席をしなければいけない（９5%）	２５　すぐに着席しないことがある（38%）
１　授業中の私語は良くない（９０％）	２１　教師や友達の発言を聞かないことがある（46%）
１８　友達が悪いことをしたら注意する（90%）	３８　友達が悪いことをしたら注意している（５８％）
４　遅刻をしないようにする（９６％）	２４　遅刻をしたことがない（67%）
９　廊下を静かに歩かなければいけない（８0%）	２９　友達とふざけながら廊下を歩いたことがある（64%）

表Ａや表Ｂから、友達と学校の中で生活するとき、守らなければならないという意識はあるものの、友達との生活で実際には行動できていない生徒も多くいることが分る。特に、「チャイム着席をしない」ことや「ふざけながら廊下を歩く」ことなど友達と過ごしていると予想される時にこのような傾向が現れている。学校の規則よりも友達との付き合いを優先させる傾向が強まっているのではないかと考える。

また、「友達が悪いことをしていたら注意する」については、ほぼ９０％の児童・生徒が注意しなければならないと考えているが、実際に注意したと答えている数値を比較すると中学校で１０ポイント低下した。ここでも、友達に対して注意をしにくくなる傾向が強まると考えられる。これは、中学生になると友人関係が少数の友達と深く付き合うようになり、かかわりの少ない友達に対して注意しにくい環境が生じているためではないかと考えられる。

さらに、小学校では意識と行動のずれの大きさで１位の「授業中の私語」については、中学校のずれの大きさは２位である。児童・生徒は「授業中の私語」については、「してはいけない」と意識しているので小・中学校が共通して「授業中には教師や友達の話を聞く」ことを徹底して、学習の在り方として指導すべきと考える。